

サクラソウ科 オカトラノオ属

コナスビ (小茄子)

Lysimachia japonica Thunb.

自生環境

野原、林縁、庭の隅 など

原産地

日本在来

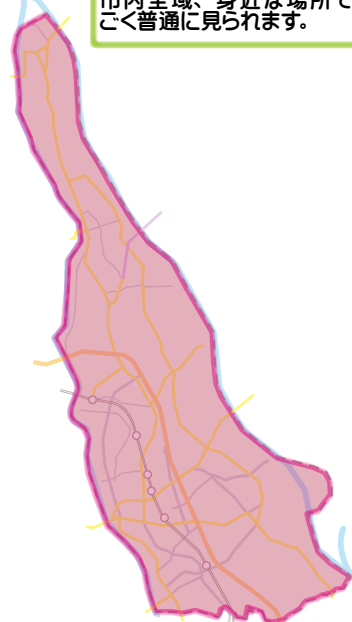
生育を脅かす要因

(今のところ特になし)

市内全域にごく普通で、今のところ絶滅の心配はありません。しかし目の敵にしすぎるのは考えもの。地域に育つ野の花として、やさしく見守る気持ちを大切にしたいところです。

市内の分布状況

市内全域、身近な場所でごく普通に見られます。



特徴

- ☆ いたるところにごく普通に見られる多年草です。サクラソウ科の植物としては珍しくとても身近な存在ですが、小さくて地味なため見過ごされてしまいがちです。株もとから地を這うように広がり、茎の長さはせいぜいのびても10～15cm程度です。
- ☆ 花の最盛期は初夏ですが、それ以外の季節でもちらほらと咲いているのを見かけます。陽だまりでは真冬でも頑張っているのがあります。花びらは黄色で5枚、花の直径は5～7mmほどです。果実は直径5mm程度の球形で、中に小さなタネがびっしりと詰まっています。
- ☆ 庭のグランドカバーとして栽培されるコバンコナスビ(リシマキア・ヌムラリア)や、初夏の山道に咲くオカトラノオも、分類上はサクラソウ科オカトラノオ属。コナスビと同じ仲間です。

果実が見当たらない？

小さななすび(ナスのこと)のような果実ができることから、コナスビと言う名前がつけられました。となるとその果実を実際に観察してみたいところですが、普通に眺めただけではなかなかその姿を拝むことができません。なぜなら、果実は葉に隠れるようにして、下向きにつくからです。もし果実を見たいと思ったら、茎をそっとめくって見ましょう。かわいい「なすび」に出会えるかもしれません。



花びらは5枚あるように見えるが、根もとで全部つながっている



葉わきに直径5mmくらいの小さな花を咲かせる



果実期もがくは残る

葉に隠れるように小さな丸い果実ができる



葉は少し幅の広い卵形



茎は地面を這うようにのびていく



寒くなると、鮮やかに紅葉する



わびちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

